

(昭和47年3月1日～3月31日現在)

正 会 員					
岸川 官一	新日本製鉄(株)	黒田 実	関西製鋼(株)	田島 耕	中央研究所
	八幡製鉄所	古賀 秀人	長崎大学工学部材料工 学科教授		日本ステンレス(株)
関口 昭一	〃 基礎研究所	桜谷 敏和	川崎製鉄(株)	中村 昭夫	直江津製造所
豊田 茂	〃 常務取締役		技術研究所		川崎製鉄(株)水島製鋼 部
南部 好機	〃 生産技術研究所	杉山 征治郎	(株)博屋商行大分出張 所	山口 洋	住友金属工業(株)
三留 力	〃 名古屋製鉄所				和歌山製鉄所
中嶋 実	(株)神戸製鋼所加古川 製鉄所	田原 基次	(株)未子製鋼所	山本 亮二	日本鋼管(株)
		武田 登	日本高級金属工業(株)		京浜製鉄所
前川 幸生	〃 溶接棒事業部		相馬工場	萩原 久人	大阪府立大学教授
牧野 等	〃 加古川製鉄所	千頭 圭司	住友金属(株)製鋼所	山本 久	〃工学部金属工学科 教授
伊藤 哲朗	大同製鋼(株)	寺田 俊司	坂井化学工業(株)		佐世保重工業(株)
	中央研究所		製鋼用品課	有馬 秀志	佐世保造船所
川合 荘之助	〃 木曾福島工場	畑中 信雄	日本高級金属工業(株)		光洋精工(株)大型生産 技術部
植田 秀夫	(株)小松製作所		相馬工場	和田 康男	
	技術研究所	日和佐米雄	三菱金属鉱業(株)		
小沢 義篤	〃 〃		生野製作所		学 生 会 員
石川 秀幸	光洋精工(株)技術係	本多 宗高	昭和電工(株)富山工場	友田 陽	京都大工学研究科大院
井上 正雄	〃 中央研究所	松永 晴男	東洋鋼板(株)下松工場	中村 誠	早稲田大鋳物研究所
高橋 照明	東伸製鋼(株)	溝部 道信	吾娯精機鋼業(株)		物理学研究科大院
又賀 義信	〃	宮沢 信夫	近畿大学金属工学科, 助教授	藤 雅雄	東京大, 工系大学院 冶金専門コース
小林 繁美	東京大学生産技術研究 所	森岡 親彦	三和炉材(株)		外 国 会 員
栗林 一彦	〃工学系大学院冶金課 程修士在学	谷津 孝	日本トムソン(株)	周 焘 銓	極東鉄鋼工業(株)韓国
			岐阜製作所	李 熙 東	〃 〃
安藤 寿	(株)日立製作所日立研 究所	吉原 哲也	日本鋼管福山製鉄所	李 鍾 祐	東国製鋼(株)
池田 順二	電気化学工業(株)	渡辺 雅朗	世田谷工業高等学校		Dr. Harry W. Meyer, (U.S.A)
	中央研究所	綾田 研三	(株)神戸製鋼所		Climax Molybdenum Co.
北野 一義	(株)野村製作所製造部				

## 書 評

## 製 鋼 製 錬 の 技 術 II

## 鉄 鋼 工 学 講 座

本書は朝倉書店から逐次刊行されている鉄鋼工学講座の1巻で、製鋼造塊が取り扱われている。

本書を通読してまず感じることは、内容が適材適所の著者らによつて製鋼造塊の全般にわたり非常にバランスよくまとめられているという点である。

内容を簡単に紹介すると全巻の約1/4を製鋼の化学として製鋼反応が広く取り扱われ、第1巻の製鉄製鋼の基礎の応用篇としてきわめてわかりやすく必要な事項が説明されている。ことに各項目ごとに実炉内の反応に言及している点は現場で製鋼に従事している技術者にとつてきわめて有益な指針となるものと思われる。

製鋼法については転炉、平炉、電気炉その他と製鋼法全般について設備、操業、制御、炉内反応などその全貌がわかりやすく述べられているが、とくに現在日本で主流をなす転炉製鋼については十分な頁数がさかれ、内容は製品の品質特徴にまでおよんでいるので、これから製鋼会社に就職を目指す学生はもちろん、鉄鋼材料を取扱う二次、三次加工の技術者にとつて、自分達の取り扱っている鋼材の製造履歴と特長欠点を知る上で好個の参考資料となるであろう。造塊部門では普通造塊、真空造塊、連続鑄造の具体的説明のほか、鋼塊の性状についてかなりの頁がさかれているのは注目してよく、これまた鋼材の使用者はもちろん一次加工を行なっている製鋼会社の他部門の技術者にも役立つものと思われる。

別に1章を設けて真空溶解法が述べられているが、比較的少い頁数の中で、とくに真空溶解の際に直面する諸問題の理論的解析、材質におよぼす効果などが的確に取り扱われている。

以上の内容紹介でも明らかなように、鋼材の品質の基礎である製鋼造塊および鋼塊の特質を把握するため、製鋼技術者はもとより広く鋼材を取り扱う技術者に一読を薦めたい好著である。(下川義雄)

(朝倉書店 A5版 262 ページ 定価 2800 円)